4.計時装置の設営

担当:東北大学　※詳細は藤岡先生作成操作と設営マニュアル参照

まずは使うもの一式をプールサイドに運び出す。
ありかは AS 準備室

PT8000×2
PT バッテリー×2
スピーカー×2
レーンボックス×4 セット
スピーカー接続ケーブル×2セット
ピストルセット×2
ケーブル類　たくさん

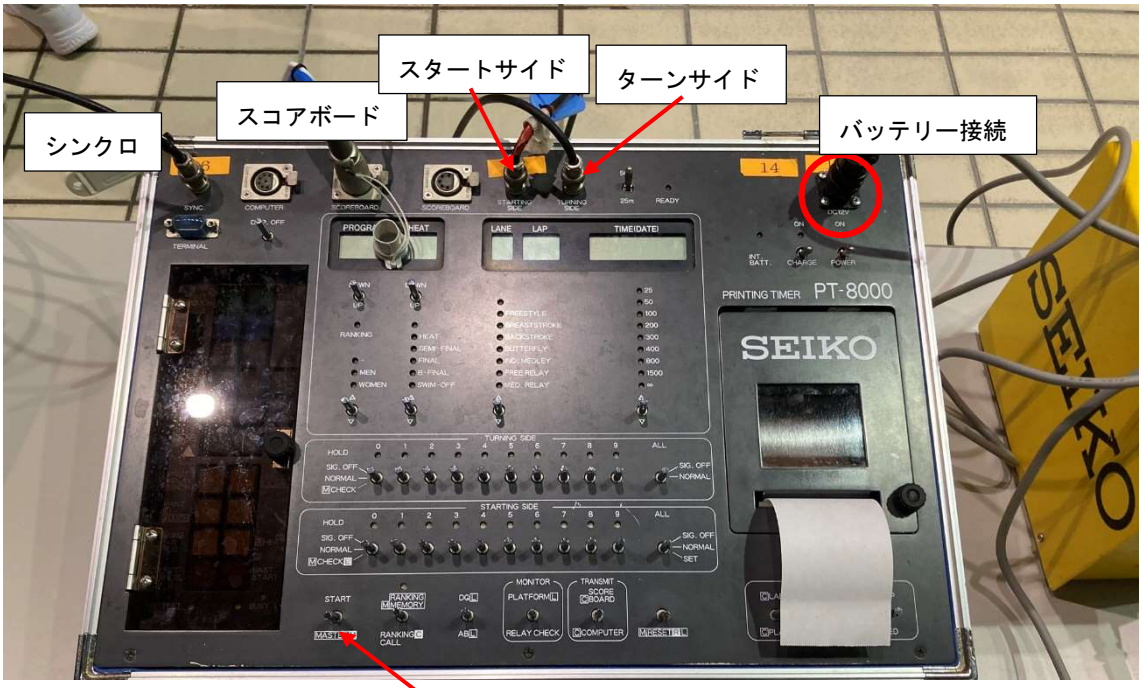
※詳細は草刈さんに確認する(足りなかったら都度取りに来ればよい)

スピーカー1台、レーンボックス2セット(2番と4番)、スピーカー接続ケーブル1セット、
ピストルセット1個はターンサイド側に運ぶ
(台車を探してきて台車でまとめて運ぶとよい)

スピーカーはプールサイド角にスタート台に向けて斜めに設置(防水カバーも忘れない!)
PT は机をもってきて設置。

① PT と壁のケーブルの接続

PT の信号を記録室 PC に送り、ピストルの出発信号を受けられるようにケーブルで接続する。

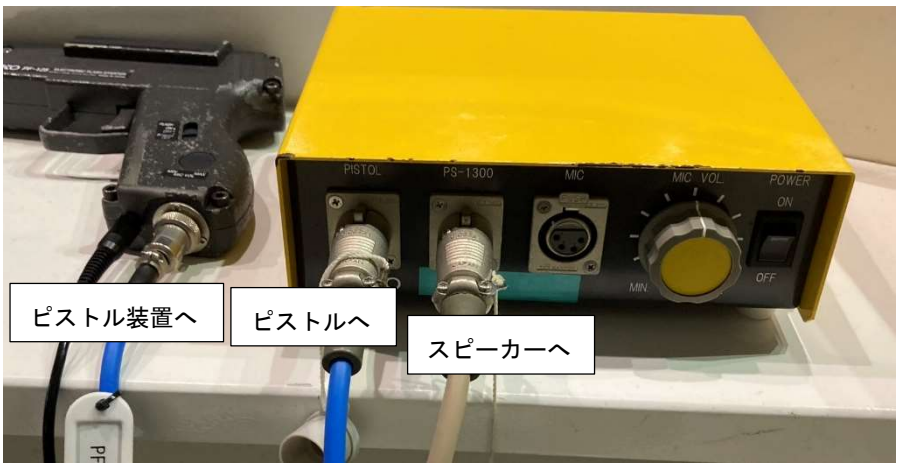


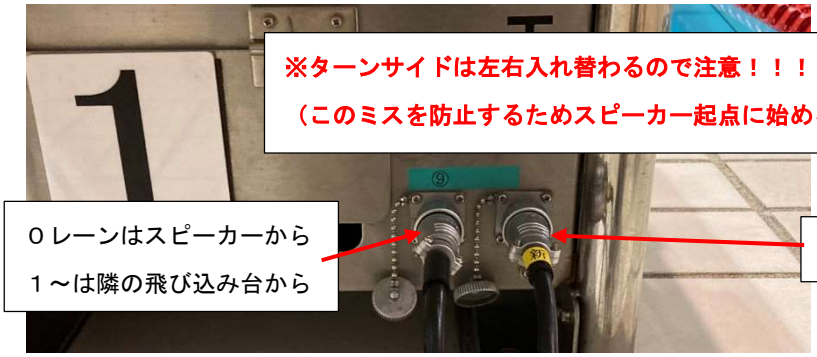
1. PT のメイン・サブを確認
   バッテリーと PT を接続する
   電源(バッテリ接続部分の下)を上げる。
   左下の MASTER/START を上にあげて、印字がいっぱいの方がメイン。
2. メイン PT と各種ケーブルを接続
   スコアボードと壁の PT-6000(④、5ピン)、ターンサイドと壁のターンサイド(⑥円形)を接続。
3. メイン PT とサブ PT の接続
   メイン PT とサブ PT のシンクロ部分を接続する(おそらく PT に入っている短いケーブル)

② スピーカーと各種ケーブルの接続

※つなぎ間違い・逆送り防止のため基本的にスピーカーを起点にし、スピーカーから繋ぎ始める

※スタートサイド・ターンサイド共通





※これをつないだ後、スピーカー接続ケーブルを0レーンから順に9レーンまで接続する。進行状況次第で他大学に任せる

③ 全自動審判装置用レーンボックスの設置

飛び込み台が設置され始めたら設置を開始する

※ケーブルがスタート台収納台・タッチ板収納台に踏まれないように注意する

※メインボックスとサブボックスを同時に設営すると混同するので必ず分けて設営すること！！！

No.1 または2のレーンボックスを開けて設置する。

【スタートサイド・ターンサイド共通部分】

・レーンボックスを各レーンの前に置く。その際、ケーブルが0レーン側（PT 側）を向くように置く。

※対応する番号がない場合、「M」と書かれたレーンボックスを確認し、ダイヤルがどの数字に合っているか確認する。それがない番号のものだったら、それを使用する。

・ケーブルを隣のレーンボックスにつなぐ（9レーンのケーブルを8レーンに、・・・）

【スタートサイド・ターンサイドで異なる部分】

・0レーンのケーブルは「S」へ、S のケーブルは延長ケーブルを使って

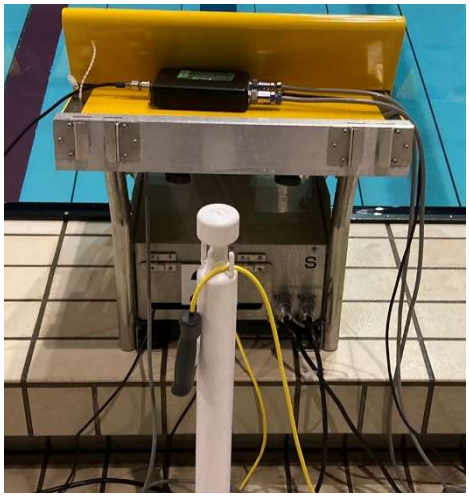
・スタートサイド→PT のスタートサイドへつなぐ

・ターンサイド→ 壁の「ターンサイド（⑧）」へつなぐ

・タッチ板のケーブルを「T/P」へ、飛び込み台のケーブルを「R/S」へつなぐ

メインレーンボックスは接続後、

飛び込み台上に置く



④ 半自動(グリップ)装置用レーンボックスの設置

No.3または4のレーンボックスを開けて設置する。

詳細は③と同じ。

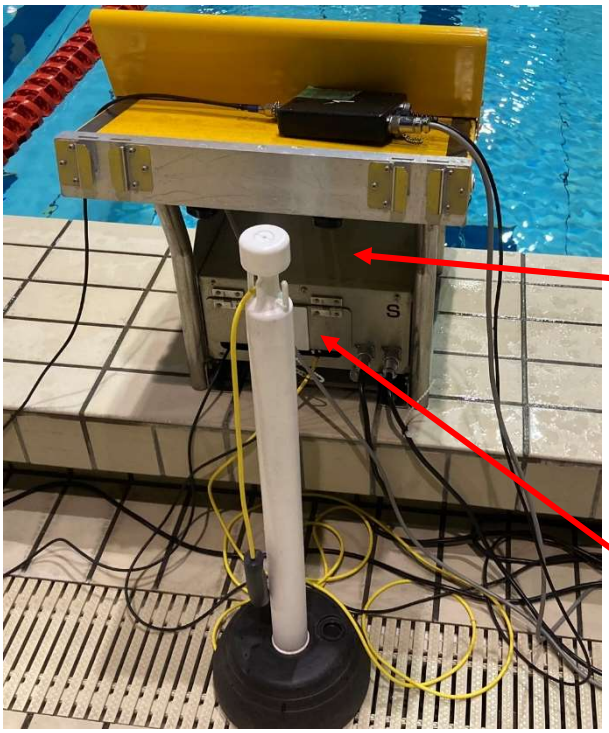
ただし、「S」レーンボックスは、

・スタートサイドはサブ PT のスタートサイドへつなぐ

・ターンサイドはドラム式延長コードを用いて直接サブ PT のターンサイドへつなぐ

グリップから延びるケーブルを「T/P」へ接続(R/S は何もつながない)

サブレーンボックスはスタート台の下に置く



サブレーンボックスは
タッチ板テストまではここへ
テスト後はメインボックスを
ここにおいておく

テスト後、
サブレーンボックスは
この中にしまう

⑤ タッチ板テスト終了後

テスト終了後はメインレーンボックスの T/P からタッチ板に延びるケーブル**のみ**外す

(他は外さない！！)

サブレーンボックスをスタート台の中にしまい、メインボックスをサブが置いてあったところに置く。